

# 日語淺易故事選



閻明・方紹欣 譯注

(附：生詞、語法注釋及參考譯文)



浸會校外進修學院  
HONG KONG BAPTIST COLLEGE  
SCHOOL OF CONTINUING EDUCATION



語自修讀物



**編譯者：**閻明教授・方紹欣

**設 計：**江寶靈・郭彩雲

**出 版：**浸會校外進修學院

**發 行：**商務印書館（香港）有限公司

九龍紅磡鶴園東街4號

恒藝珠寶大廈2樓

**承印者：**采藝印刷設計公司

洛克道393-G號11字樓

**定 價：**港幣六十八元正

**版 次：**1990年10月初版

**版權所有・翻印必究 國際書號ISBN 962-7247-07-3**



## 前記

爲了給初學日語的人仕提供閱讀材料，我們搜集了一些語句比較簡練、內容生動有趣、生活詞匯豐富、便於上口朗讀的日語短篇故事，編成這本《日語淺易故事選》，以便初學者通過閱讀，鞏固已學的日語基礎語法知識和詞匯，接觸新的語法現象和一些特殊的表達方法，進一步提高會話、閱讀和翻譯能力。

本書前一部分爲中國民間故事，多半是敬體；後一部分爲日本民間故事及日本兒童故事，多半是簡體。爲便於讀者自學起見，對於一些不常見的單詞和初學者可能生疏或未接觸過的語法現象，均作了較詳細的注釋。所附參考譯文，盡量採取了直譯，以便讀者對照閱讀。

本書主要是爲了初學日語的人仕課外自修，但亦可試選作課堂講授的教材。

本書由本院日語進修顧問閻明先生主持選編和譯注，本院日語兼任教師方紹欣小姐助理譯注。封面及內容一小部分插圖係本院江寶齡女士繪製。此外，出版前曾得到葉偉然先生、梁樂健先生、曾安琪女士、邱東芬女士、朱琮玉女士、郭彩雲小姐等在內容校閱、業務聯係等方面的共同努力。

由於時間倉促，加之水平有限，在選材、注釋及參考譯文上不妥或錯誤之處在所難免，敬希讀者及從事日語教育工作的先生們批評指正。

浸會校外進修學院

1990年5月

# 目 録

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 蛙の引越し（青蛙搬家） .....       | 1  |
| 羊飼いの子供（放羊的孩子） .....     | 7  |
| 人の口（他人的批評） .....        | 12 |
| 蝙蝠（蝙蝠） .....            | 17 |
| 狐の裁判（狐狸的裁判） .....       | 23 |
| 自己矛盾（自相矛盾） .....        | 28 |
| 蛇足（畫蛇添足） .....          | 30 |
| 日本のむかしばなし（日本民間故事） ..... | 33 |
| 怪物（怪物） .....            | 42 |
| つんぽのおやじ（聾老頭） .....      | 49 |
| ニワツトリのハちゃん（咕—咕—咕） ..... | 54 |



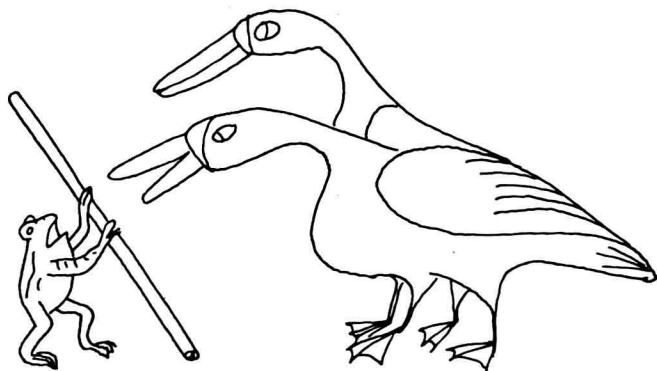
ないもうこ みんな  
——内蒙古の民話

雁の夫婦と蛙が一匹、湖水の傍に、もう長いこと住  
んでいました。その仲のいいこと言ったら、まるで一家  
族のようでした。

やがて、日照りになって、湖水が乾き、飲み水がな  
くなってしまいました。そこで、雁は、水のある所へ飛  
んでゆきたいと思いました。でも、蛙を残してゆく気  
には、とてもなれないのでした。

「どうしたらいいだろう。」雁と蛙が話し合いました。

蛙が智慧を絞ったあげく、いいました。  
棒っ切れを持ってきて、あなたがたが両端を銜え、  
ぼくが真中を銜えて、水のある所へ飛んでゆきましょう  
。」



雁が賛成したので、すぐ出発することになりました。

そこで、みんな揃って、空へ飛び立ちました。

すこし行くと、蒙古人のテントがいくつか並んでいる上を通りました。テントの中から人が出て来て見ていました。

その人たちがいいました。

「雁が蛙を連れて飛んでいる。旨い工夫だな。」

蛙は心で思いました。

「これはぼくの工夫なのに。」

それから、またすこし行くと、蒙古人のテントがたくさんある上に差掛りました。前より大勢の人が出て来て見ていました。

その大勢の人たちがいいました。

「雁が蛙を連れて飛んでいる。旨い工夫だな。」

蛙は、

「これはぼくの工夫なのに。」と心に思い、もうすこしで、口に出していう所でした。

まだまだ飛びつづけて、今度はもっとたくさん蒙古人のテントがある上に差掛りました。今度はもっと大勢の人が出て来て見ていました。

その大勢の人たちが、一齊にいいました。

「雁が蛙を連れて飛んでいる。旨い工夫だな。」



蛙は堪え切れずに、口に出して言ってしまいました。

「これはぼくの工夫なのになあ。」

その途端に、蛙は棒っ切れから落ちてしまいました。

## 註釋

1. 引越し (名) / (「引越す」的名詞形) 搬家、遷居。
2. 民話 (名) / 民間故事。
3. もう長いこと住んでいました。／已經住了很久了。「こと」接在形容詞連體形下，可以構成副詞。「長いこと」等於「長く」。▲早いことやっしまえ。／趕快幹完吧！(＝早くやっしまえ)
4. その仲のいいこと言ったら、まるで一家族のようでした。／要是說起他們的交情，那簡直跟一家人一樣。  
 ①「仲のいい」是「仲がいい」作定語，意思是「交情好」。  
 ②「…こと言ったら」／要是說起…。「こと」是形式體言，在這裏頂替了賓格助詞「を」。「たら」是過去助動詞「た」的假定形，在這裏只表示假設，沒有時態的意義。

- ③「まるで…のようだ」／簡直像…。▲二人は仲のいい友だちで、まるで兄弟（きょうだい）のようだ。／兩個人是好朋友，簡直跟弟兄一樣。
5. やがて：[聽て]（副）／不久。
  6. ひでり[日照り・旱]（名）／旱，乾旱（＝かんばつ）
  7. 蛙を残してゆく気には、とてなれないのでした。／把青蛙留下走，心裏很不願意。「気になれない」是詞組，意思是「不想…」、「不願意…」。
  8. どうしたらいいだろう／怎麼辦才好呢。「（疑問詞）＋（動詞連用形）＋たらいいだろう（か）でしょう（か）」是一個常見的慣用形，表示「…才好呢」▲日本語を勉強したいですがどう勉強したらいいでしょうか／想學習日語，怎樣學習才好呢？▲どんなテキストを選んだらいいだろうか。／選擇什麼教材才好呢？
  9. 話し合う（自、五）／交談，商談，商量。
  10. 智慧を絞ったあげく／用心思考的結果。「智慧を絞る」是「絞盡腦汁」、「反復思考」的意思。「あげく」〔揚句〕（名）／原意是由五、七、五共十七字組成的短詩——俳句（はいく）的末句，轉意是「…的結果」，在句中構成狀語成分。▲口論（こうろん）のあげく、つかみあいになった。／爭吵的結果、揪打起來了。▲苦心（くしん）に苦心を重ねたあげく、日本語を身につけるようになりました。／苦心鑽研的結果，掌握了日語。
  11. 棒っ切れ／短棍子（＝棒の切れ）
  12. すぐ出発することになりました／決定馬上出發。「…ことになる」或「…ことになっている」接在動詞連體形下，表示「決定…」，「規定…」。▲あのひとは近いうち上海へ行くことになっている。／他決定最近去上海。
  13. 揃う（自五）／聚集，齊集。
  14. 飛（び）立ッ（自五）／複合詞。飛起來，飛上去。
  15. テント〔Tent〕（名）／帳棚。
  16. いくつか〔幾つか〕（數）／若干。「か」在這裏是副助詞，表示不定。
  17. 並ぶ（自五）／成行，排成行列。
  18. 旨い工夫／好竅門，好辦法。「工夫」（名）／竅門。
  19. これはぼくの工夫なのに。／這卻是我（想）的竅門。「のに」是逆態接續助詞，接在用言連體形下，表示前後兩種事不相適應或者後者不合邏輯，有「卻…」、「然而…」等意。當它接在一句的末尾，不說出後項的時候，帶來一種「事與願違」的遺憾的口氣。▲もう一日早く行ったらよかったのに。／要是再早一天去的話就好了。（可惜去晚了。）這裏的「これはぼくの工夫なのに」帶有「可惜你們卻不知道」的遺憾口氣。
  20. 差掛かる（自、五）／臨到（…地點），到達。
  21. もうすこしで、口に出している所でした／再差一點就說出口了。「所」在這裏表示「（就要）…的時候」。



22. まだまだ飛びつづけて／又飛啊，飛啊。「つづける」〔続ける〕（他、下一）／（可以接在很多動詞的連用形後面，表示）繼續、接連不斷。▲働きつづける／繼續勞動。▲話しつづける／繼續談話。
23. 堪え切れずに／不能再忍耐地…。「堪える」（他下一）／忍住、抑制住。「堪え切れる」是「堪え切る」／「一忍到底」的可能態。「ずに」＝「なくて」，作狀語。
24. これはぼくの工夫なのになあ／這卻是我（想）的竅門啊！「なあ」是感嘆助詞，表示感動、讚嘆。
25. 途端（名）／恰當…時候，剛一…時候。▲車から下りたとたん（に）、人に囲まれた／剛一下車、就被人包圍了。

## 參考譯文

### 青蛙搬家

——蒙古民間故事

一對大雁和一隻青蛙，在湖水傍邊，已經住了很久，要是說起他們的交情，那簡直跟一家人一樣。

過了不久，天旱了，湖水乾了，喝的水沒有了。於是，大雁想飛到有水的地方去，可是，實在不願意把青蛙單獨留下。

大雁和青蛙商量：

“怎麼辦才好呀！”

青蛙開動腦筋，苦思苦想，最後對大雁說：

“去拿一根短棒來，您們咬住兩頭，我咬住中間，咱們一塊飛往有水的地方去吧！”

大雁表示贊成，決定即刻出發。

於是，大家集合在一起，飛向空中。

飛了一會，經過了幾座蒙古人的帳棚上面。人們從帳棚里走出來看。

這些人說：

“大雁帶着青蛙飛，這個辦法真好啊！”

青蛙心里想：

“這可是我想出來的辦法呀！”

然後，又飛了一會，飛到了很多蒙古人的帳棚上面。從帳棚出來看的人比上一次多了。

這些衆多的人們說：

“大雁帶着青蛙飛，這個辦法真好啊！”

青蛙心里想：

“這可是我想出來的辦法呀！”差一點就要說出口了。

又飛啊，飛啊，這一次，飛到了更多的蒙古人的帳棚上面。這一次，有更多的人們走出來看了。

這些衆多的人們一齊說：

“大雁帶着青蛙飛，這個辦法真好啊！”

青蛙忍不住地說出口了：

“這可是我想出來的辦法啊……”

就在一張口的時候，青蛙從短棒上掉下來了。



# ひつじが　こども 羊飼いの子供

ある所<sup>ところ</sup>に羊飼いの子供<sup>の　はら</sup>がいました。毎日野原で羊のばんをしていました。

ところが、この子供はたいそういたずらもので、そのうえ、うそつきでした。

ある日のことです。今日は、ひとつ村<sup>むら　ひと　おどろ</sup>の人を驚<sup>おどろ</sup>かせてやろうと思<sup>おも</sup>いました。そこで、子供は高い所<sup>たか　あが</sup>に上<sup>あが</sup>り、大きな声<sup>おお　こえ</sup>で。

「狼<sup>おおかみ</sup>が来た。狼<sup>たす</sup>が来た。助<sup>たす</sup>けてくれ。」と、叫<sup>さけ</sup>びました。

村の人たちは、これ<sup>き</sup>を聞いて、びっくりしました。そして、おおぜいの人<sup>み</sup>が野原へかけつけました。子供はこれ<sup>おもしろ</sup>を見て、たいへん面白<sup>おもしろ</sup>がりました。

村の人たちがかけつけて見ると、狼<sup>いっぴき</sup>は一匹もいません。その子供は平気<sup>へいき　かお</sup>な顔<sup>かお</sup>で、

「狼<sup>うそ</sup>はもう逃<sup>に</sup>げてしまったよ。」と嘘<sup>うそ</sup>をいいました。

その次<sup>つぎ　ひ</sup>の日、子供はやはり野原で羊のばんをしていましたが、昨日<sup>きのう</sup>のいたずらがたいそう、面白<sup>おもしろ</sup>かったので、またひとつ村<sup>かんが</sup>の人を驚<sup>おどろ</sup>かせてやろうと考え<sup>かんが</sup>ました。そして昨日<sup>おな</sup>と同じように、

「狼<sup>おおかみ</sup>が来た。狼<sup>たす</sup>が来た。助<sup>たす</sup>けてくれ。」と、叫<sup>さけ</sup>びました。

村の人たちは、また驚いて、すぐ野原へかけつけました。けれども、やはり狼はいませんでした。

子供はこれを見て、面白くてたまりませんでした。が、平気な顔で、

「狼はもう逃げてしまったよ。」と、嘘をいいました。

村の人たちは、

「あの子供はいたずらものだ。そのうえ、うそつきだ。」<sup>おこ</sup> <sup>かえ</sup> <sup>こんど</sup> <sup>で</sup> 怒って帰りました。

その次の日のことです。子供はやはり野原で羊のばんをしていました。ところが、今度はほんとうに狼が出て來ました。さあ、たいへんです。いたずらの子供はびっくりして、大きな声で、

「狼が來た。狼が來た。助けてくれ。」と、いっしょうけんめいに叫びました。けれども、村の人たちは平気な顔で、



「あの子供はうそつきだ。そのうえ、いたずらものだ。嘘だ。嘘だ。」といって、誰も助けに行きませんでした。子供はとうとう狼に<sup>た</sup>食べられてしまいました。

## 註釋

1. 羊飼<sup>い</sup>／放羊的。「飼<sup>い</sup>」是「飼<sup>う</sup>」的連用形作名詞。是由「羊を飼<sup>う</sup>」變來的謂賓結構名詞。這種謂賓結構的名詞在日語中很多。如：「牛を飼<sup>う</sup>」→「牛飼<sup>い</sup>」／放牛的。「魚を売<sup>る</sup>」→「魚売<sup>り</sup>」／賣魚的。「車を引<sup>く</sup>」→「車引<sup>き</sup>」／拉車的。
2. 野原／野地。
3. 羊のばんをしていました／放羊。「番<sup>ばん</sup>をする」是「看守」、「值班」。「牛の番をする」是「放牛」。「店の番をする」是「看守柜台」。
4. ところが〔所が〕（接續詞）／可是、不過。
5. たいそう〔太層〕（副、形動ダ）／很、非常。
6. いたずら〔惡戲〕（名、形動ダ、自サ）／淘氣、惡作劇。いたずらもの〔惡戲者〕／淘氣的人，惡作劇的人。
7. そのうえ〔其の上〕（副）／而且、加之。
8. うそつき〔嘘吐き〕（名）／說謊的人。（「嘘を吐く」變成的謂賓結構的名詞。）
9. ひとつ〔一つ〕（副）／稍微、一次，試一試（＝ちょっと）▲一つ話して見よう／說一說吧！▲一つやってみよう／試一試看。
10. 驚かせてやろう／「驚かせ」是「驚く」的未然形「驚か」加使役助動詞「せる」的連用形「せ」，再接接續助詞「て」和補助動詞「やる」。「…てやる」接在動詞或某些助動詞下，表示自己或自己一邊的人爲別人（同輩或晚輩）進行某種動作。「…てやろう」是「てやる」的推量形，表示意志或決心。「ひとつ村の人を驚かせてやろうと思いました」／想使村子裏的人吃一驚。
11. そこで（接續詞）／於是，因此。
12. 助けてくれ／「助ける」的連用形接接續助詞「て」和補助動詞「くれる」。「…てくれる」接在動詞或某些助動詞連用形下，表示別人爲自己或自己一邊的人進行某種動作。「…てくれ」是「てくれる」的命令形。「助けてくれ」／幫幫忙吧！救救命吧！

13. びっくり〔吃驚〕（名、自サ）／吃驚、嚇一跳。
14. おおぜい〔大勢〕（名、副）／許多（人）。
15. かけつける〔駆け附ける〕（自下－）／跑到、跑來。
16. 面白がりました／覺得有趣。「－がる」是接尾詞，五段型。接在形容詞詞幹下，構成動詞，表示「感覺」、「覺得」。▲：「可愛い」→「可愛がる」／喜愛。「寒い」→「寒がる」／怕冷。「偉い」→「偉がる」／自以爲了不起，自高自大。
17. 一匹もいません／提示助詞「も」接在表示「一」的數量詞下，與後面的否定詞語相呼應，表示全體或全部的否定。▲一つもない／一個也沒有。▲一字も書けない／一個字也不會寫。
18. 平気（名、形動ダ）／冷靜、鎮靜、不在乎。
19. 狼はもう逃げてしまったよ／狼已經逃走了。「…てしまう」接在動詞、助動詞連用形下、構成動詞的完成態，表示「完了」、「光了」或不能恢復原狀。「よ」是感嘆助詞，表示叮囑或引起對方注意。
20. やはり〔矢張り〕（副）／仍然、還是。（有時讀成やっぱり）。
21. 昨日と同じように／跟昨天一樣地…。「同じ」是活用形不完全的形容動詞，在修飾體言時只用其詞幹「同じ」，不附加詞尾「な」。因此，也有將「同じ」當作連體詞。「…ように」是比況助動詞，接在連體形或體言加「の」的下面作狀語，當「像…一樣地」。「…ような」作定語，「…ようだ（です）」作謂語。
22. 面白くてたまりませぬ／高興得不得了。「…てたまらない（たまりませぬ）」接在形容詞連用形「く」的下面，意思是「…得不得了」，「…得受不了」、「非常…」。▲暑くてたまらない。／熱得受不了。▲忙しくてたまりませぬ。／忙得不得了。非常忙。
23. さあ、たいへんです。／哎呀，這可不得了。「さあ（＝さ）」感嘆助詞。表示驚訝或意外。「たいへん」〔大變〕（名、形動ダ）／不得了，了不起。（「たいへん」作副詞用時是「很」、「非常」的意思。▲たいへん暑い／非常熱。）
24. とうとう〔到頭〕（副）／終於。
25. 狼に食べられてしまいました／被狼吃了。「食べられる」是「食べる」的未然形「食べ」下接被動助動詞「られる」。在被動句中、動作的發動者作補語，用補格助詞「に」或「から」表示。▲學生が先生に褒められる。／學生受老師表揚。▲一部分の人から反對された。／受到一部分人反對。

## 放羊的孩子

某處，有個放羊的孩子，他每天都在野外放羊。

可是，這個孩子十分頑皮，常常說謊。

有一天，他想把村子的人們嚇一嚇，於是，便爬上高的地方，大聲喊着：

“狼來了！狼來了！救命啊！”

村子的人聽到喊聲，大吃一驚。於是，很多人就向野外跑去。孩子看到這些情況，覺得十分有趣。

村子的人跑到後一看，却連一隻狼也沒有。孩子滿不在乎地說：

“狼已經逃跑了啊！”

第二天，孩子仍然在野外放羊，他覺得昨天的惡作劇很好玩，想把村子的人再嚇一次，於是，和昨天一樣，又喊道：

“狼來了！狼來了！救命啊！”

村子的人又吃一驚，趕快跑到野外，但是，還是沒有狼。

孩子看到後，高興得不得了，却還是滿不在乎地說：

“狼已經逃跑了啊！”

村子的人們說：

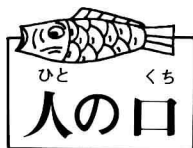
“這孩子真頑皮，在說謊。”大家生氣地回去了。

又過了一天，孩子仍然在野外放羊。可是，這一次狼真地來了。哎呀！這可不得了！頑皮的孩子大吃一驚，拼命地大聲喊道：

“狼來了！狼來了！救命啊！”

可是，村子的人們却滿不在乎地說：

“那孩子在說謊，是惡作劇。謊話，謊話！”誰也不去救他，孩子終於被狼吃掉了。



ある百姓が驢馬ひやくしやうろばを売りに町へ出かけました。むすこふたりと二人でそれを引いて行きました。すると、むこうから人よんごが四五人やって來ました。

「あの人たちは馬鹿ばかですね。驢馬のに乗らないで歩いあるています。」と言って、笑いました。

父親ちちおやはなるほどそうだと思って、むすこを驢馬のに乗せて、自分は歩いて行きました。すると、又またむこうから二人ずれの人がやって來ました。

「ごらんなさい。老人ろうじんが歩いて、そのむすこが驢馬さかに乗っていますよ。まるで逆さまでですね」と、言いました。

父親はなるほどそれにちがいないと思いました。そこで、今度は自分こんどが乗って、むすこを歩かせました。暫しばらく行きますと、五六人いっしょの人に出合いました。

「ごらんなさい。老人が驢馬に乗って、子供こどもを歩かせています。全くまったかわいそうだ。」と言って、通りましとおた。

父親はなるほどそのとおりだと思いました。自分ひとりだけ一人乗ってもいけないし、むすこだけ一人乗ってもいけない。ですから、今度は二人いっしょに乗りました。

すると、その次つぎに出合った人たちは、「ごらんなさ



い。あんな小さい驢馬に二人も乗っています。しまいに驢馬が疲れて倒れますよ。かわいそうなことだ。」と言って、行きました。

二人はまったくそのとおりだと思って、急いで驢馬から下りました。そして、暫く考えました。

親だけ乗ってもいけないし、子だけ乗ってもいけない。二人いっしょに乗ってもいけないし、また二人いっしょに歩いてもいけない。しかたがないから、驢馬の脚を四本一つに縛って、棒を通して、親子でかついで行きました。



## 註釋

1. 人の口／旁人的嘴；人的評論
2. ある〔或る〕／（連體詞）下接體言，相當於「某…」、「有…」。